

第1回府中市子ども・子育て会議報告書

1 日 時：令和6年3月21日（木）10：00～11：30

2 場 所：府中市役所4階 第一委員会室

3 出席者：吉 原 純（会 長） 金 子 努（副会長）
廣 瀬 和 彦（委 員） 板 橋 千代美（委 員）
河 村 昌 子（委 員） 土 井 健 嗣（委 員）
宗 藤 正 典（委 員） 田 中 いづみ（委 員）

4 概 要

(1) 開会

(2) 会長・副会長の選任

(3) 報告

① 第2期府中市子ども・子育て支援事業計画における令和2年度から令和5年度の「量の見込み」と「実績」（令和5年度は見込み）について

② 保育所の現状について

③ 子育て支援パッケージについて

(4) 議事

① 第3期府中市子ども・子育て支援事業計画について

- ・計画の概要、策定スケジュール
- ・ニーズ調査設問項目（就学前児童保護者用）
- ・ニーズ調査設問項目（就学児童保護者用）
- ・子どもの意見反映アンケート調査設問項目
- ・府中市子ども・子育て会議開催スケジュール

(5) 閉会

以下、主な質疑及び意見等

【報告】

質 問 利用定員が減っている理由は。

事務局 基本的に児童数が少ないことに伴って、利用定員の設定をしていただいている。利用定員を決めることで、各保育所に支払われる給付費が変わってくる。現状を見ながら各施設が検討され、申請していただいている。

質 問 各施設で決められているということか。

事務局 各施設で決めている。入所予定児童数や職員の人数を勘案してされている。

質 問 令和6年度の入所申し込みはいつまでか。出そろっているのか。

事務局 前月の20日までの締め切りとなっている。160名弱のお申し込みをいただいている。待機児童の発生はない。

質 問 160名程度というのは、前年、前々年からいうと、どういう状況か。

事務局 昨年度も150名程度で、今年度は10名程度増えている状況。ただそれは0から5歳までの全ての総数として増えている状況ということにはなる。

質 問 利用定員が減ってきているというところで、子どもの数と、もう一つ保育人材の確保の問題はあるのか。人材の確保ができないために、定員を下げる状況などあれば教えていただきたい。

事務局 保育所の状況が色々あるが、実際ここ何年か入所児童数というか全体の子どもの数が減っているのも、どこの保育所も入所児童数が減ってきているというのは、状況としてある。もともと認可定員を設定されているところに、毎年そこまですでに減っているという保育所が増えている。それに合わせて、保育士の確保も変えられているという状況。どっちが先か分からないが、保育所によっても違うと思う。保育士の数も減らしながら、入所児童数も減った状態で、スタートさせるという保育所も幾らか出ている。低年齢のところと、3歳から5歳のところをきちんと分けて考えることや、1号認定については、就労等されていない方も3歳から5歳は入られているので、その人数をどう考えていくかというような事細かい分析が必要になると考えている。

委員がおっしゃられた、今、保育人材の確保がどうなのか。子の出生数と合わせてどう考えていくのかという大きな問題がある。その点について、次回以降の会議で、詳しくご意見を頂戴したい。もっと詳しい資料をお出しして、議論をしていただきたい。

今回は今までのご報告ということで、4年分をお示しするという形でご了承いただきたい。今後、資料提供する。

【議事①】第3期府中市子ども・子育て支援事業計画について

意 見 第1回目なら良いが、1期・2期を踏まえるので、仮説や予測を立て、深堀したいところなどがあると、よりこのニーズ調査が意義深いものになるのではないかと思う。アンケートは得てして、現状把握と傾向が知れるだけと考えている。前提としてこんな仮説があって、こんな課題が想定されるということがあ

ると良いのではないかと思う。

意見 私たちの頃には当たり前だったことが今の若いお母さんにとってはないと感じる所が多々起きてきている。心理の変化も知りたい。今こういうところが希薄になってきている、だからここをケアしていこうなど考えることができるので、そういったことがわかる項目があるといい。

意見 1期・2期の経験を通して、まだ手がつけられていないであるとか、ニーズを聞いていて声が多かったところなど、そこを3期として力を入れて行こうというのがあると思う。そこを重点的にするべきだと思う。

事務局 1期から2期の10年間で時代も大きく変わり、また急激に少子化が進んだ。量の見込みや確保方策については出来ている。しかし、1期からの経年で経過をみていく必要はあることと、国が指定している項目があるため、必要であると判断する項目については省くことはできない。
また、ショートステイやトワイライトステイ事業のように、第2期計画策定時には始まっていなかった事業もあり、必要に応じて検討することが必要になってきている。流れが変わってきている部分については、聞いていくことはあることだと思う。

意見 子どもが成長するに伴い、親の環境も変わってくる中で、助けを必要とすることもあると思う。こういった声をアンケートで拾い、ニーズをキャッチできるかというところも模索できたらいいと思う。

意見 子ども達の心ややる気も育てていかないと支援ばかりではいけない。そういった視点が盛り込まれることを期待している。

意見 アンケートの中の性別の選択など、その他を選択することは心が痛むのではないかと感じる。デリケートな設問項目も多いので、言葉を気を付けることが必要だと思う。

意見 設問が多い。子育てに従事されている方が一番聞いてほしいこと、ニーズが生かされるような形のものをに入れていくことが望ましい。

意見 負担に配慮しないと回収率は下がる。

意見 子どもへの調査の設問について、対象年齢はどうか。親がついていないと回答が難しいとなると調査の意味がないのではないか。

事務局 子どもへの調査については、教育委員会と調整する。

※全議事了承